



樹 姉 ば よ り

No.137
2016.3

慈悲喜捨

春の海いねもす

のたりのたりかな

与謝蕪村

空はうららかに晴れわた
り、春の海には波がゆつたり
うねりを描いて、一日中のた
りのたりと寄せては返してい
るの意。

この句は、丹後与謝の海を
詠んだともいわれている。し
かしこの句を読むと、まどろ
むような海の情景が目に見え
る。陽光の溢れた風景画を見
るように、平明で親しみやす
く、のんびりした温かい気分
になる。そんな叙景性が蕪村
の句の特徴であり、魅力でも
ある。

起きもせず

寝もせず夜を明かしては

春の物とてながめ暮らして

『古今和歌集』在原業平
昨夜は起きていなくてもな
く、寝るでもなく夜を明かし、
今日も春のならいの、しとし
とと降る雨を、春の愁いで仕
方ないと思いつながらぼんやり
と眺め、物思いに一日をすこ
してしまったの意。

蕪村の句もそうだが、どう
も春は、まどろみ、うとうと
しながら一日を過ごすのが気
分がよい。と言うよりこの気
候こそが、春の魅力であり、
素晴らしさかもしれない。

『徒然草』「をりふしの移り
変はるこそ」の段に、「今一

段と心が浮き立つのは、春の
様子ようだ。鳥の鳴き声な
どとりわけ春めいて、のどや
かな日差しの下で垣根の草が
生えてくるころから、しだい
に春も深まり、桜の花も次第
に咲きそうになるころであ
る」とある。「趣があるとい
うことでは秋が一番まさって
いる」と誰もが言うようだが、
心浮き立つのは春だと、吉田
兼好も述べている。

寒く冷たい一月も、節分
立春を過ぎると日に日に暖か
くなり、やれ梅が咲いた、桜
はまだかと草木の芽吹くのを
心待ちにする時期になり、ま
た、学校年度では別れの時で
もあります。

昨日といひ

今日と暮らしてあすか川

流れて速き 月日なりけり

『古今和歌集』春道列樹
月日の流れるのは早いもの
です。

列れをば

山のさくらにまかせてむ

とめむとめじは花のまにまに
『古今和歌集』幽仙法師
別れのことは山の桜にまか
せましよう、引き止めるかど
うかは花の意のままにの意。

とうとうか、やっとか、卒業
の時が来てしまいました。三
年間慣れ親しんだ級友、校舎
ともお別れです。

卒業、おめでとう

教頭 尾内 正彰

卒業式 式辞

樹徳中学校・高等学校校長

野口 秀樹



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんの卒業に際して、今月号には、平成二十七年の卒業式・式辞を掲載いたします。

式 辞

岩走る

垂水の上の早蕨の

萌えいづる春に

なりにけるかも

(万葉集巻八 志貴皇子)

春の光を受け、大地のそこかしこに生命の胎動を感じる今日の佳き日、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、明照学園樹徳高等学校卒業式が盛大に挙行されますこと、誠に有り難く心より感謝申し上げます。ご来賓の皆様、誠に有り難うご

ざいます。

さて、只今卒業証書を手にした三四七名の卒業生諸君、ご卒業おめでとう。諸君の一人ひとりの胸の内には格別の感慨があるうかと思えます。人生の意義ある節目の一つとして、今日の日の思いを忘れずに、大切にして欲しいと思います。

諸君は学習、部活動、学校行事、清掃、奉仕活動、また仲間との学校生活等において、本校の教育理念でもある「智慧と慈悲」の精神を弛まず実践し、見事体現されました。何事にも真摯な姿勢は実に立派でありました。本校での三年間、中学校からの諸君は六年間、公立学校では決して学ぶことのできない「祈りの生活」・「感謝の生活」・「奉仕の生活」等々、み仏のみ教えに導かれ、学業を成就いたしました。

我が国の歴史において、未曾有の災害となった東日本大震災では、他の魁となる被災地の支援活動に取り組み、奉仕の輪を広げることに大いに貢献いたしました。それらの生活・実践は、いつの日か、諸君の人生の中で貴重な財産の一つになるものと確信しております。

す。

しかし、ある意味では高校生活は社会や周りの人から見守られた環境の中での生活・学習でもあったことに、心して下さい。

学園を巣立つ卒業生諸君に饒の言葉贈ります。先ず、創立者野口周善先生が、昭和十五年の卒業式で生徒に向かって話された言葉であります。

人生航路の難は、向かう山にあらず、向かう川にあらず、ただ人情及復の間にあり。

世間は厳しい。謙虚に逞しく。

人情反復とは、人の心の変わりやすさを言います。人生につきまとう厳しい世間に、どう立ち向かっていくべきかが示されています。

周善先生は、他人を先に立てる謙虚さと同時に、逆境に直面してもたじろがない不屈の逞しい精神力を持つて歩め、と述べています。時代を経て、樹徳の校風が培われた今こそ心すべき至言であると思っております。

二つ目は、私の好きな言葉、明治、大正、昭和と活躍された陶芸家の河井寛次郎氏の言葉です。

過去が咲いている今 未来のつぼみで いっぱいな今

その意味は、自分で蒔いてきた種によって今の自分がある。今の姿がある。これは誰の責任でもなく、気がつかなかったけれど自分で選んで育ててきた姿である。蒔いた種とは、考え方や、生活の仕方、学習、努力、行動などすべてです。そして、私の未来に対しては、今、自分で知らずにつくっている。であるならば、意識して善い未来づくりの種を蒔かねばと思えます。

諸君は、「未来のつぼみでいっぱいな今」です。

本学園は昨年の四月二十五日に一〇一年目を迎えました。諸君は次なる一世紀の歴史の幕を開いた記念となる卒業生なのです。社会に出て大いに世の光になつて欲しい。創立以来、私達の願いは本学園に縁のあった青少年

が、豊かにこの国を支えてくれることであります。卒業生の諸君、これからが真の人生航路の船出です。我が学園の卒業生として、常に矜持を持ち、積極進取の精神で多くのことを学び、感謝と喜び、そして祈りの心を保持し、お役に立てる人に成長してくれることを念じております。

結びになります。保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。皆、様々な困難を乗り越えてこのように立派に成長いたしました。未来に羽ばたくこの晴れやかな姿を皆様とともに喜びたいと存じます。また、本校教育推進に格別なご協力を賜りましたこと、改めて厚く御礼申しあげます。

本学園を代表し、皆様衷心より感謝申し上げます。

合 掌

平成二十八年三月一日

明照学園樹徳高等学校

校長 野口 秀樹



卒業生への饞のつとば

三年生がそれぞれの進路に向かって旅立ちます。そんな三年生に対する饞のことばを学年主任の先生にいただきました。

第三学年男子部主任

宮坂 伸 一 郎



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご家族の皆様におかれましても、心よりお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんが入学された時、本校は創立九十九周年、卒業年度の現在は創立一〇一周年です。唯一、旧校舎と新校舎で学ぶ機会を得ました。現在の野口秀樹校長先生が校長職に就任し、私自身が初めて学年主任として今の学年に携わったのも、皆さんが入学された時でした。様々な点で新たな移り変わりがあり、その中で在校生として過ごした高校生活は、他では経験できるものではありません。本校が新たな時代へ船

出をする、その出発点に今の卒業生全員がいるということに他なりません。

三年間を振り返り、今一度思い出してもらいたいことがあります。それは、朝のHRで必ず唱和していた信条、すなわち「和を保つ、争うことなく協力して事に当たる、一人一人が大切な存在である、行った後の見返りは求めない、常に邁進する、努力を怠らない」とのことです。皆さんは、これからの日本社会を担う貴重な人材です。この志を胸に秘め、実社会で大いに活躍していただきたい。

また、在学中に野口校長先生より「静と動を大切に」との教えもありました。メリハリがなければ、何事も最後までやり遂げることはできません。全ての行いは、心の在り方が深く関与しています。日頃より学んできた事柄に対し、常に自身の心の持ち方が大切であるのが理解できたのではないのでしょうか。

卒業後の社会生活において、多くの苦楽を経験することと思われます。辛く苦しい時には、今一度信条を思い出して下さい。何かの気付きになるはずですよ。そして、妥協や甘えは人間としての成長の芽を摘み取る最大の要因にもなり兼ねません。「目標を明確に持ち、

少しずつでも前進しよう」との気持ちを持ち続けて下さい。強い意志が必ず自らの想いをより一層良い方向へ導くはずですよ。

最後になりますが、卒業生の皆さんの今後の活躍と更なる飛躍を期待し、私からの饞の言葉と致します。《後ろを振り向かず、正々堂々と前へ突き進もう！》

第三学年女子部主任

高草 木 裕 子



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心よりお祝い申し上げます。

真新しい制服に身を包

み、不安げな表情で迎えた入学式のこと、まるで昨日のことのように思い出されます。そして忘れられないのが、高校生活への期待にキラキラと輝く皆さんの瞳。あの日から、早くも三年の歳月が経ちました。皆さんの高校生活はどのようなものでしたか。きつと充実したものであったことと思えます。

さて、今日を境に皆さんは「自由」を手に入れることとなります。生活や服装の細かなきまりはありませんし、これまでのように注意されたりすることも少なくなるでしょう。しかし、「自由」と同時に、「自立」することと、「責任」を負うことが求められます。これまで、学校では多くの先生方の厳しくもあたたかい指導があり、家庭でも家族の方々が皆さんを手厚く見守ってきました。それらが完全になくなるわけではありませんが、様々な場面において、自分で判断して行動し、それに対する責任も自身で負わなければならなくなると思います。高校三年間での経験を元に、時には周囲の助言に耳を傾け、自身自身の判断でしっかりと歩んで行って下さい。

そんな皆さんの前途には、様々な困難が待ち受けているかもしれません。それらから目を背けることなく、前向きに挑戦して下さい。挑戦して失敗する人と、何もしないで失敗する人には、大きな違いがあります。皆さんには前者であってほしいと願います。一つ一つの失敗が、大きな成功に繋がるからです。一所懸命に努力すれば、必ずや困難な状況を乗り越えることができるでしょう。それだけの若さと力が、皆さんにはあるのです。

この三年間は、創立一〇周年を迎え、新たな一歩を歩み出すという、本校の歴史の中でも最も重要で輝かしい時であったと思います。そのような三年間を皆さんとともに過ごせたことを、心から嬉しく感じています。本校伝統のセーラー服は皆さんの卒業と共に全て新デザインに切り替わりますが、その制服を着て過ごした高校時代の思い出と本校卒業生としての誇りを胸に、大きく羽ばたいてほしいと思います。ご卒業おめでとうございます。



卒業を迎えて

樹徳高校を

卒業するにあたって

三年K組 鈴木竣哉
(みどり笠懸中出身)



私は第二希望だった樹徳高校に入学しました。当時、何より樹徳高校は校則が厳しく、宗教的色彩が強いので、特別な信仰を持たない私にはなじみにくい、という漠然とした思いがありました。しかし、いざ樹徳高校での生活が始まると、私の中の漠然としたイメージは変わっていききました。

とりわけ、修学旅行は思い出深いものとなりました。ライトアップされた知恩院と庭園の美しさはもちろんの事、境内を参拝し、五体投地と呼ばれる特別な礼拝の作法で臨めたこと

は、樹徳生ならではの貴重な体験だったと思います。そして、ユニバーサルスタジアムでは大掛かりな演出のアトラクションに大興奮し、日本にいながらにしてアメリカ文化の一端を感じる事ができました。

一方、学習面では特進クラスに所属していたため、授業が課外を含めて八時間まであり、たいへん厳しいものでした。加えて土曜日や長期休業中にも課外があり、まさに勉強づくしでした。とても辛い日々でしたが、先生方の熱心なご指導のもと、必死で食らいついていきました。中でも英語の授業はとてもハードな内容でしたが、大幅な学力の向上につながりました。もし、あの授業がなければ、貧弱な私の英語力はより一層貧弱だっただろうと思います。こういった先生方の素晴らしいご指導により、希望する高崎経済大学に合格することができました。

樹徳に入学し、そして旅立とうとする今、私はあることに気がつきました。そ

れは、私自身が多くの人たちに支えられているという事実です。私が日々、当たり前に高校生活を送れるのも、私の両親たちが学費や交通費を工面してくれたら、毎日のお弁当を私より早起きをして作ってくれているからこそです。学校では、先生方が学習面はもちろん、私が自分の道を迷ったときにはしっかりと導いて下さいました。そして、クラスには勉強や運動で互いに切磋琢磨し合える友人がおり、本当にたくさんの人たちに支えられていたことを実感しています。卒業を迎える私は、支えられながら生きていくことに感謝しつつ、私もまた、これからは多くの人を支えられる人間になっていきたいと考えています。

ありがとうございます、樹徳。

樹徳高校での三年間

三年J2組 小野寺愛佳
(高崎中尾中出身)



振り返って今一番に思うのは、長いようで短い高校生活だったということですね。

私にとって、特に印象深かった樹徳高校での思い出が二つあります。

一つは、二年生の時に行われた体育祭で優勝できたことです。当初、優勝できるとは思っていませんでしたが、競技の中で、選手と応援する皆とが一体となっていく中、クラスが一致団結して優勝を目指して頑張り抜こうと、皆の気持ちが高まっていくのが感じられ、全員で優勝を勝ち取ることができました。

そして二つ目は、三年生最後の合唱コンクールです。練習の時はなかなか皆がまとまらずにいましたが、コンクールの日が近づくとつれて次第に皆の気持ちが高まり、わずかな隙間時間にも練習するようになりました。本番では皆、一番の笑顔で歌えたと思います。結果は入賞こそできませんでしたが、特別賞をいただき、私たちのまとまりある雰囲気伝わったのだと、嬉しい気持ちになりました。

高校卒業後、私は社会人になります。そして、私は

社会人になるにあたって、大事なことが三つあると考えています。

一つ目は、「挨拶をする」ことです。挨拶をきっかけに人と人とのコミュニケーションが始まります。人との会話が不得意な私は、まず挨拶から始めようと思います。

二つ目は、「責任を持つて行動する」ことです。社会人にとって時間を有効に活用し、約束や期限を守って行動することは当然であり、その労働の対価として賃金をいただく以上、中途半端な気持ちで働くわけにはいきません。

三つ目は、「自立すること」です。これまで私を育ててくれた両親に、少しずつでも恩返しができるよう、経済的な自立はもちろん、精神的な自律も含め、人間として成長できるように務めていきたいと考えています。

三年間の高校生活を振り返ると、さまざまな思いがあふれてきます。その中で私は、この樹徳高校に入学することができて本当に良かったと思っています。



いただきものの人生

まなざし

ある高名な映画監督が、自身の回想録で、特に印象に残っている「影響を受けた人物」を挙げている中で、以下のような話があった。

「戦後、満州から引き上げた後、中学三年から本土の学校に復学した。戦争、戦後の混乱で、学校に通うのは一年半ぶりだった。生活の変化に戸惑うのはもちろん、当然のごとく、学習面でも他の生徒に遅れ、苦勞していた。そんな中、「勉強を見てやるから私のうちに来なさい。」と声をかけてくれた数学の先生がいた。その先生は、厳しいことを言うわけでもなく、勉強している私の向かいの席で、静かに本を読んでいた。ただだったが、学習環境を提供してもらえたことは、大変ありがたかった。その

後、大学受験のために浪人したが、その時も、先生は面倒を見てくれた。

相変わらず、私の向かいで静かに本を読んでいるだけだったが、その先生の姿は、とても印象に残っている。勉強以外のことはほとんど話さないし、学校でも冗談ひとつ言わない無口な先生だった。

学生時代の自分の身の上には、両親の離婚など、辛い出来事がいくつもあった。時には、生きていく気力も失せたように考えることすらあったのだが、この先生の姿を思い浮かべると、不思議と心がいやされ、元気になるのだった。

その後、進学し、田舎から東京へ出て、先生とはそれきりになってしまった。徐々に映画の仕事も忙しくなり、軌道に乗ってゆくにつれて、これまでのことを振り返る機会などめっきり

減ってしまい、先生とのこともすっかり忘れてしまっていた。しかし、あれからもう五十年以上も経った今頃になって、ふと、思い出すことがあるのだ。もう名前も覚えていない、あの先生のことを、である。

教えてもらった数学の内容は、きれいさっぱり忘れてしまった。しかし、あのとときの先生の姿、私に対するまなざしは、今でもはっきりと思い出せる。先生は、そのまなざしで、私に教えてくれたのだ。その教えてくれたことを、私は今なら、言葉にしてみる事ができる。

人生は、そんなにも面白おかしいものではない。むしろ、退屈で淋しいものだ。しかし、自分を愛し、他人をやさしく見つめることができたなら、時々、ああ生きていて良かったなあ、と思うことがあるに違いない。人生は、そのためだけにでも、生きるに値するのではないか。

特に思春期にでもなれば、人はしばしば、自分は何のために生きているのだろう、生きるとはどういうことなのだろう、などと考え、不安や、時に絶望感に

さいなまれることさえある。しかし、そんな時、悩める若者たちの周りに、人間はこのように生きるのだ、という見本となるような素敵な大人がいたら、どんなにいいだろう。私は先生に、『他人を優しく見る態度』を教わったのだ。そして、それを今度は私が、若者たちに示していかなければならないと思う。そのような人間になりえるかどうか、この日本の将来を形づくる私たち大人には、責任があると思う。」

人はその生涯の中で、このように、人生の指針を示してくれるような存在に、どこかで巡り会っているのだろう。これから社会に出て行く卒業生諸君が、誰から示された教えでもよい、その胸に刻み、自身の人生の指針として、まっすぐに進んでいってくださることを望む。そして今度は、次の世代に、その姿、まなざしで、指針を示してあげられるような存在になってくれることを期待してやまない。

(編集子)



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」3月予定

- (1) アートスクール「編み組み教室」
主催 野村ナナ子さん
3日(木) 13:00～、17日(木) 10:00～
- (2) 七草ゼミナール塾 主催 上野文雄さん
24日(木) 19:00～
「経営者としてのマネジメント能力を高める実践的学習会」
- (3) 販売実習 12日(土)、13日(日)、19日(土)、26日(土)
各 10:00～16:00
 - ① 東北復興支援商品 (鯨・鯖・サンマ缶詰、わかめ等海産物)
 - ② 「3.11メモリアル企画」復興写真展 (12・13日)
 - ③ 「相田みつを美術館」取扱い商品
 - ④ 「星野富弘美術館」取扱い商品

一貫校 中学校 だより

第9回群馬県 声楽アンサンブル コンテスト 金賞



私たちは、一月三十一日に前橋市民文化会館にて行われた、

群馬県声楽アンサンブルコンテストに出場しました。金賞を取ることはできませんでしたが、残念ながら目標としていた関東大会には届きませんでした。正直、悔しい思いはありますが、このコンクールを通して何物にも代えられない達成感を得ることができました。私たち三年生は、これで引退となりますが、音楽部で培ったことを今後の生活に役立てていきたいです。有り難うございました。

十三期生 海外語学研修発表会

二月十二日、三年生による海外語学研修発表会がおこなわれました。



生徒たちは班に分かれ、事前にイギリスの文化・歴史・生活習慣等、テーマを決めて調べました。帰国後は、現地での体験や感想をパワーポイントにまとめ、発表会では素晴らしいプレゼンテーションを披露しました。

今後旅立つ後輩達にも良い刺激になりました。

第十四回 立志式

二月十六日、第二学年（十四期生）の立志式が中央公民館で行われました。四十二名一人ひとりが、将来の夢や目標を掲げ、強い決意表明をしました。この立志式を機に自己と向き合い、『将来、こんな職業に就きたい』『こんな大人になりたい』という思いを深め、自己実現に近づくよう、これからも努力を継続していくことでしよう。日々変化していく生徒達をこれからも温かく見守っていく所存です。



記念講演『感謝の心が君の夢をかなえる』

講師 加藤 久雄氏



記念講演では、『どんぐり亭物語』『65点の君が好き』等の著書を出版し活躍されている加藤久雄先生をお招きし、ご講演頂きました。大学在学中、アマゾン・北極への冒険やどんぐり亭という教育支援活動施設の話を通して、「感謝の気持ちで自分自身を成長させてくれる」ことを伝えて下さいました。



TOPICS

◆平成二十七年 度

群馬県中学生新人 駅伝競走大会 優勝
一月十六日、前橋市総合運動公園で実施され、見事大会新記録で優勝しました。

- 一区 赤坂匠 区間二位
- 二区 友野公貴 区間二位
- 三区 深澤宏輔 区間二位
- 四区 長谷川倫哉 区間二位
- 五区 加川大翔 区間一位
- 六区 阿部紘大 区間三位

◆第二十四回

ぐんま県民マラソン ジュニアロードレース

- 一年 3kmの部
- 二位 深澤 宏輔 (九分五九秒)
- 十五位 加川 大翔 (十分二一秒)
- 二・三年 5kmの部
- 十位 赤坂 匠 (十六分二二秒)

◆第六十二回

堀マラソン大会
二月十四日におこなわれた堀マラソン大会でも好成績を残しました。

- 《5km男子中学生の部》
- 七位 深澤 宏輔
- 八位 阿部 紘大
- 十位 加川 大翔

幼稚園だより

一年間の成長と卒園・進級

頬にあたる風の柔らかさに、ようやく春の訪れを感じるようになりました。楽しかった園生活も、締めくくりに迎えました。

子どもたちは、茶臼山親子登山、運動会、なかよし発表会等の大きな行事を立派にやり遂げ、この一年間で心身ともに大きく成長しました。

年長さんは、各小学校の体験入学を終え、「早く学校に行ってみよう!」「ランドセルピカピカだよ!」



みんなでのしくおどりました☆

と入学が待ちきれない様子です。季節が一回りして、義務教育の基礎をしっかりと身につけて、大きく羽ばたこうとしています。卒園式での別れがづらい三月となりそうです。

年少さんも年中さんも春の出会いから楽しいことがいっぱい的一年でした。もうすぐ進級、それぞれが一つ大きくなっての活躍・成長が今から楽しみです。

社会性を育てる行事

四月当初はまとまりに欠け、思うようにいかなかったクラス運営も、行事を一つ一つ消化することにまとまり、子どもたちも成長してきました。

幼稚園における行事は、子どもたちの社会性(対人関係能力)を育てるのに、



びきもがんばったよ!

年少さんは、初めて大きなステージでの発表会を経験し、会話もスムーズに、自信を持って園生活ができるようになりました。今では、できない子の手伝いをしたり、協力性も育って、園生活がとても楽しそうです。

年中さんは、個々の遊びから、集団遊びへと発展しています。自己主張も強くなり、友だちと衝突する場面もありますが、相手の気持ちを理解できるようにな

大きな役割を果たします。

- 二者間における親密性の育成
- 三者間以上で生じる協働性の育成
- みんなのことをみんなで考える(子どもなりの役割と責任)

等、子どもたちは多くの行事を経験するなかで、相手の立場を考えたり、「私たち」という意識が生まれ、「やったね」と一緒に笑ったり、悔しがったりする情動的共有を身につけることができます。「なかよし発表会」を終えた二、三月には、これらの成長が目に見えてわかるようになります。

り、「何々してあげたい」という、友だちを思いやる姿が見られます。

年長さんは、幼稚園の顔として、行事や園生活において大活躍するなかで、その責任を果たすとともに、集団で行動し、何かを造り上げていく喜びが、味わえるようになりました。また、練習に取り組むなかで、自分のことばかりでなく、相手の気持ちを受け入れ、思いやりの心が持てる優しさも身につけ、小学校での活躍が楽しみです。

子どもの育ちを

実感する行事

行事については、常に振り返り(反省)「来年はもっとこんな風になりたいね!」



おひなさま、すてきだね!

という職員の見解を大切にしています。子どもたちの育ちの実感が、翌年への希望と仕事への手ごたえを生み出すからです。そして、保育の質の向上は、教職員一人ひとりの心の中の「保育への期待」と「育ちの手ごたえ」から生まれると思っています。

来年度も行事を通して社会性や豊かな心、生きる力の育成を目指して、その充実に努めて参ります。

この一年間保護者の皆様や関係者皆様には大変お世話になりましたが、来年度もご支援ご協力よろしくお願いたします。

幼稚園長 瀬谷 茂

入園願書受付中

くまだ間に合います! ◎四月入園児・満三歳(二歳児含む)入園児の願書を随時受け付けております。(三月末日まで)

◎まずは直接ご来園くださるか、お電話にてお問い合わせください。

◎平日はいつでも見学できます。お子さんと一緒にお出かけください。

住所 桐生市広沢町3-4475

電話 0277-535571

◎詳細はホームページでも!

http://www.jutoku.ed.jp/kinder

3 月 (智 慧) の 行 事 予 定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	火	卒業式	頭髪服装指導 早朝自主学習(～9日)	介護老人保健施設クラフトーホー 演奏発表(年長)
2	水	卒業式後片付け マイトリー基金拠金日		英語(全)・文字と数(年長)
3	木	雑祭り		雑祭り お別れ会練習 体育(全)・文字と数(年中)
4	金	私学校長会 スキー教室費用納入日		お別れ会 謝恩会
5	土			
6	日			
7	月	学年末試験(～10日)	学年末試験(～9日) お役に立とう週間⑥	職場体験(太田東中 ～9日) リズム(全)・線(年少)
8	火			
9	水			お茶のお稽古(発表会) 英語(全)・文字と数(年長)
10	木	市街地清掃(通算85回目)		体育(全)・文字と数(年中)
11	金	防火避難・初期消火訓練		お別れ遠足
12	土		数学検定(小学生対象)	
13	日			
14	月	LHR	1学年保護者会 あいさつ運動	リズム(全)・線(年少)
15	火		2学年保護者会 ミニマナーアップ運動	茶臼山登山 法人役員会
16	水	第3回入学手続(13:00～)	グループワーク研究発表会	英語(全)・文字と数(年長)
17	木	担任宛成績提出	3学年保護者会	体育(全)・文字と数(年中)
18	金	視聴覚教室 教務宛成績提出	視聴覚教室②	
19	土			
20	日	春分の日		
21	月	振替休日		
22	火	出欠統計 女子制服アフターサービス	中学成績会議	卒園式予行演習
23	水	漢字テスト⑥ 学年末一斉指導 成績会議		第63回卒園式(10:30～)
24	木	終業式 大掃除	終業式 大掃除 卒業証書伝達式	預かり保育(卒園生)
25	金	春季校内特別課外授業開始 奨学生審査会③	春季特別補習(～28日)	3学期修了式 預かり保育(卒園生)
26	土			
27	日			
28	月	総務会 学籍整理・年度末事務(～31日)		春休み(～4月7日) 在園児預かり保育(～31日)
29	火	教科主任会 新入生進学オリエンテーション(13:00～)		
30	水			
31	木			

※ 1 日は安全点検日です。また、4 日は授業料・保育料の納入日です。



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目 1 番 20 号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町 4 - 12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目 4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく